オーベル蘆花公園

OBER ROKAKOUEN

No. 20-022-2014作成
新築
集合住宅

発注者	大成有楽不動産株式会社
設計・監理	株式会社長谷工コーポレーション HASEKO Corporation
施工	株式会社長谷工コーポレーション

カテゴリー

A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO_2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

南面に広がる蘆花恒春園、敷地内の豊富な既存樹を活かした緑の息づく住い創り

計画地は「第一種低層住居専用地域」に属し、南面には約8haの広さを有す都立公園「蘆花恒春園」を望む。蘆花恒春園は文豪徳富蘆花の旧宅や、書院などの茅葺屋根の建築物が保存されており、クヌギ、コナラなどの雑木林や竹林にも囲まれ、武蔵野の風情を色濃く残す都内でも稀有な存在の公園である。

また、旧家の母屋周辺が含まれた計画敷地内には、豊富な既存樹木（約80本）や、添景物である灯篭、層塔、庭門、庭石等が多く残されており、これらを土地の記憶として次世代へ継承すると共に、蘆花恒春園との緑の繋がりをも意識したランドスケープデザイン、建築デザインを行った。

杜に囲まれた住棟、住宅内にも緑を取り込んだ専用部のプランには、建物全体に緑の息使いが聞こえる様である。

蘆花恒春園を望む住戸は
ハイサッシを採用。
公園内の緑を室内にも取り
込んだ住戸プラン。

1 敷地北側駐車場前にそびえる「シラカシ」の大樹

2 この地を見守り続けてきた美しい「ソメイヨシノ」

■ 世田谷区指定の保存樹

3 豊かに樹齢を重ねた「ケヤキ」

4 秋を彩る風物詩「イチョウ」

かつて、この地にあった日本庭園。
そこから継承された数々の添景物。

広大な敷地の一部は、かつて日本庭園であった場所。敷地と同時に数々の添景物を譲り受けました。灯籠、景石、石畳……それらを庭やアプローチに添え、新たな景を創造。この地の記憶を次代へ継承していきます。

建設前の現地内の庭園

公園へと繋がる歩道（公開空地）

敷地外周の接道面は、広場状空地と保存樹木と建物の間を縫うように設けられた歩道状空地で構成されている。地域に開放されているこのスペースは、住宅街と蘆花公園とを結ぶ緑に囲まれた気持ちの良い空間である。

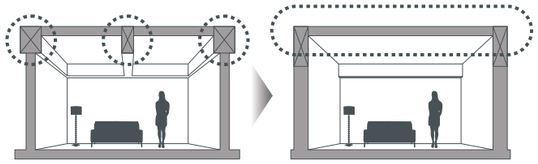
また、エントランスに付随するラウンジはガラス張りとし、プライベート空間である中庭を外部から望めるプランニングとした。計画内の景観を外部へも提供する工夫である。

邸宅の中庭

歩道状空地

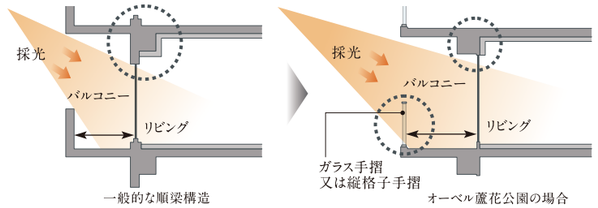
ラウンジ越しに中庭が望める

開放感・居住性・エネルギー効率を高める工夫



〈小梁・戸境壁の梁型がある住空間〉　〈段差付きPRCスラブ工法+壁内蔵梁工法〉

段差付きＰＲＣスラブ工法、壁内蔵梁工法の採用



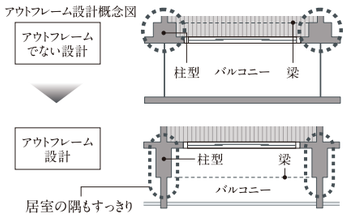
一般的な順梁構造　オーベル蘆花公園の場合

ガラス手摺等の採用、梁形状の工夫

閉じた状態　開いた状態

可動間仕切の採用

ハイサッシの採用



柱形状の工夫

住宅性能表示制度 省エネ等級４の取得。
屋上に太陽光パネルを設置
※写真は参考写真

設計担当者

統括：小島俊司／建築：遠藤匡利
ランドスケープ：山本富雄／構造：入江貴弘、鶴田敦士／設備：寺崎正行、渡辺俊彦

建物データ

所在地	東京都世田谷区
竣工年	2013　年
敷地面積	8,993㎡
延床面積	A敷地 4,832㎡　B敷地 6,459㎡
構造	RC造
階数	A敷地 地上4階　B敷地 地上4階

主要な採用技術(CASBEE準拠)

Q3. 1.	生物環境の保全と創出（高い緑化率、既存樹木の保存の取り組み）
Q3. 2.	まちなみ・景観への配慮（周辺環境への調和、街並みの形成）
Q3. 3.	地域性・アメニティへの配慮（地域へ開放した広場、歩道を計画）
LR1. 1.	建物の熱負荷抑制（住宅性能表示制度　省エネ等級４）

サステナブル建築事例集／一般社団法人日本建設業連合会
※本事例シートおよび記載内容の二次利用を禁止します